双葉通信【第 262 回】（人生は旅人№32）“ふくしまに恋をして　福島人に”

2025 年 11 月２０日　上田　勉

デフリンピックのサッカー、J ヴィレッジで開催される

11 月 14 日から 25 日まで、J ヴィレッジで、デフリンピックの男女サッカーの試合が行われました。

J ヴィレッジは、広野町と楢葉町にあります。“サッカーの聖地”です。2002 年のサッカーワードカップ日本・韓国共催大会で、日本代表が合宿しました。

J ヴィレッジは、1997 年 6 月に東京電力が 130 億円をかけて建設して、1997 年 6 月に福島県に寄贈されました。福島県は県のイベントがあれば、東京電力から寄付をもらっています。ですから、福島県は東京電力に頭が上がりません。

福島第一原発事故の後､国道 6 号は､J ヴィレッジから北側は通行止めになりました。そして J ヴィレッジは、廃炉と除染作業の前線基地になりました。サッカー場には鉄板が敷かれて、何百台の車が駐車しました。

デフリンピックは、聴覚障害者のオリンピックです。1924 年にフランス大会が初めて行われました。今年で 100 年の歴史があります。よって、パラリンピックには、聴覚障害者の競技はありません。デフリンピックでは、聴覚障害者の人も、補聴器を外して競技しなければなりません。

国家斉唱も、選手は手話で歌いました。審判も、ホイッスルではなく、旗で判定します。声が聞こえないのに、選手のチームワークは素晴らしいです。

応援も手話です。リーダーの人が前にいて、手話で応援します。観客もそれをまねして応援します。攻撃の時は「行け行け」です。両手を肩から前に出します。攻撃される時は「大丈夫」です（私はできませんでした）。

私はサッカーの試合を 3 試合見ました。17 日（女子：日本対イギリス）、18 日（男子：ブラジル対ウズベキスタン）、20 日（男子準々決勝：日本対ブラジル）です。会場の観客は、いつもガラガラですが、20 日の男子準々決勝では、4 分の 1 ぐらいの観客で埋まりました。

【手話と法律】日本では 1933 年以降、2011 年まで、手話は日本の法律上では『言語』として認められておらず、公立のろう学校でも、積極的に教授されているところが多くなかった。多くのろう学校ではむしろ、「口話法」（相手の口を見て話を理解する技術）が主流となっているが、口話法は習得が難しいと指摘する専門家が少なくない。これまで、多くのろう者は、先輩等の手話を見て憶えるのが主流だった。そこで、手話言語法という、手話を言語として認める法律を制定しようという動きが出た。国際連合の障害者権利条約には、手話が『言語である』と明記されている。
（出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）

【応援は勿論手話でー（日本）行け！行け！】（2025 年 11 月 20 日撮影）

【国歌斉唱も手話でーブラジル選手】（2025 年 11 月 20 日撮影）